

## 不妊手術助成金制度についての問題点（平成 18 年 4 月 11 日話し合いより）

野良猫を人道的に減らすためには、不妊手術が不可欠です。その実現のためには、大勢の市民の協力が不可欠です。

1、東京都在住の女性、中村さん「100匹もの猫がいて出産時期です。私が、通って不妊手術をやりますから助成金を申請させてください」と申し出て、帰りがけに申請手続きに行きました。川崎市健康福祉局「川崎市在住の方でないと対象になりません。」

問題点 1、 仮に、不妊手術代 2 万円の病院で、1 匹に川崎市の助成金 ¥3000 が当てられても、 $17000 \text{ 円} \times 100 \text{ 匹} = 1700000 \text{ 円}$ を、川崎市に存在する野良猫不妊手術のために、自己負担するのです。どこに住んでいても、助成対象にするべきです。嘘について、川崎市在住の人の名前を使って申請する必要などないのです。このため、中村さんは、助成金申請は、辞退しました。

2、では、川崎市在住の、私、結が助成金を申請した場合はどうか。  
川崎市指定獣医で、100匹の手術を受け入れてくれるところはありません。  
結のかかりつけ協力病院は、神奈川県大和市にあり、指定獣医にはなれないため、助成金は使えません。

問題点 2、 多くの野良猫に対し、数の問題、費用の問題、技術の問題等で、適応する病院は少なく、どこで手術をしても、助成金が受けられるようにしなければ、不妊手術は、すすみません。

3、まして、川崎市の助成金は、一人につき 3 匹までです。100匹の野良猫なら、33人の参加がなければ手術は、終わりません。一人で 100 匹手術をするのに、3 匹分の助成では、雀の涙です。

問題点 3 野良猫を減らす為に、不妊手術をすることが目的ですから、一人の人が全部やって下さるなら、誰にとっても大変ありがたいことで、それで目的は達成できます。1 匹の野良猫不妊手術に対して、いくら助成であって、数が多くなればなるほど自己負担は大きくなるのですから、数の制限なく助成が必要です。